

国語 第5学年 文章に説得力をもたせるには 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の9月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

主張と理由・事例の関係を確かめ、筋道が通るよう文章全体を構成する。強い言い切りや情報の量だけで説得力を測らない。単元の終わりに残すのは、主張・理由・事例の構成図、並べ替えた文章、変えた理由。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)イ	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

単元の目標

文章の構成や展開について理解することができる。筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価基準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の構成や展開について理解している。〔知識及び技能〕(1)カ	①「書くこと」において、筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えている。(B(1)イ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（書②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価基準（評価方法）
第1次	1	○文章の主張と理由を取り出す。事例がどの理由に対応するか確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○構成を替えて読み比べる。目的に合う順序を選んで説明する。	思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えることができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この事例は、どの理由を確かめるために必要ですか」 【めあて】主張と理由・事例の関係を確かめ、筋道が通るよう文章全体を構成する。 〈予想される児童の反応〉 ・主張と関係のない詳しい話が入っている。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「この事例は、どの理由を確かめるために必要ですか」構成を替えて読み比べる。目的に合う順序を選んで説明する。 主張・理由・事例の構成図、並べ替えた文章、変えた理由。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・主張と関係のない詳しい話が入っている。 ・先に理由を示すと事例の意味が分かる。 ・反対の考えへの説明も必要だと思う。	教師作成の短い提案文を主張・理由・事例に分け、矢印で対応させる。出典のない数値は足さず、児童が授業内で確認できる事実を使って構成を検討する。 想定するつまずき：根拠がないのに必ずと断定する、事例を多く入れて中心が曖昧になる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・反対の考えへの説明も必要だと思う。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。 書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この事例は、どの理由を確かめるために必要ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、根拠がないのに必ずと断定する、事例を多く入れて中心が曖昧になる。この場合は、教師作成の短い提案文を主張・理由・事例に分け、矢印で対応させる。出典のない数値は足さず、児童が授業内で確認できる事実を使って構成を検討する。おおむね満足できる状況は、筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 主張・理由・事例の構成図、並べ替えた文章、変えた理由。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」126行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) LINEオープンチャット
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo みえ先生ラボ

